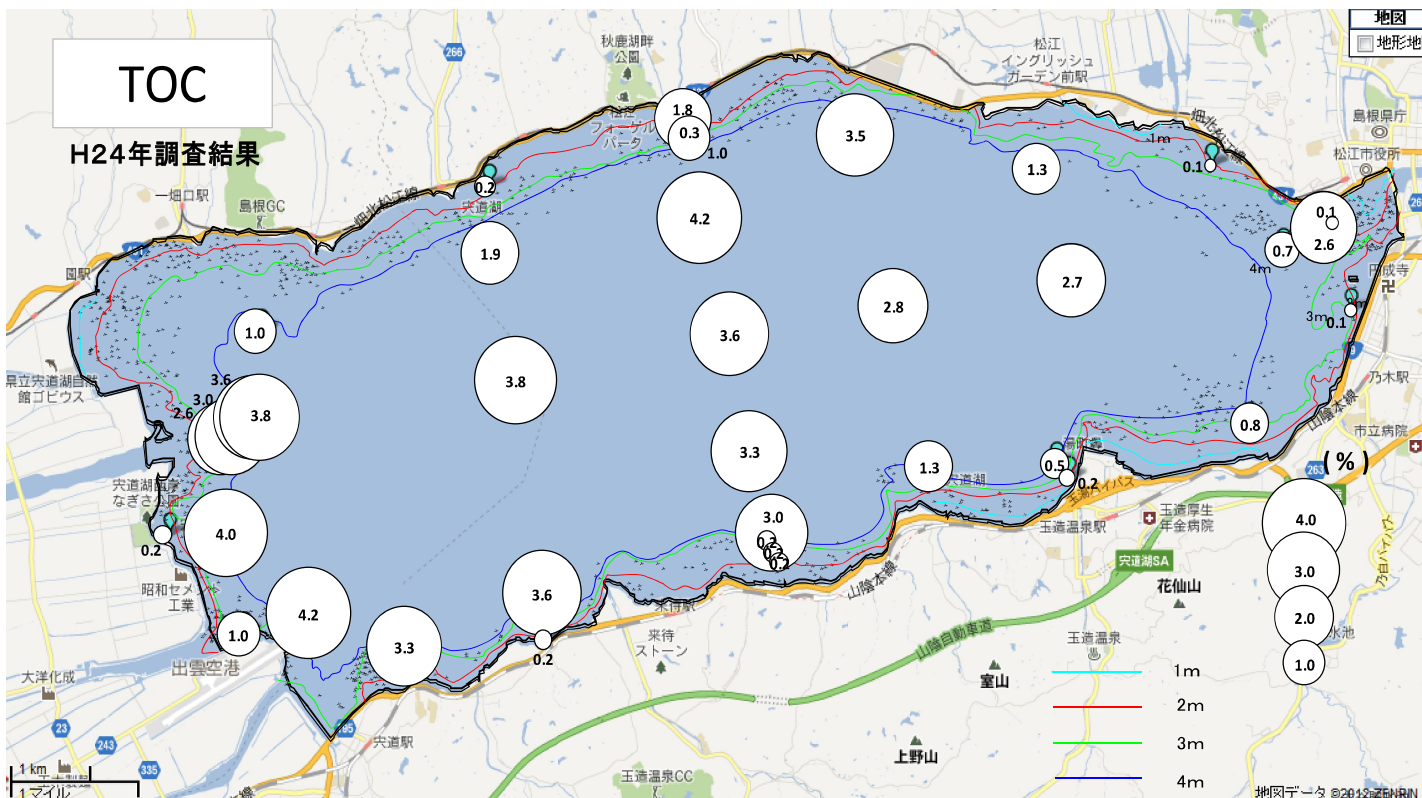
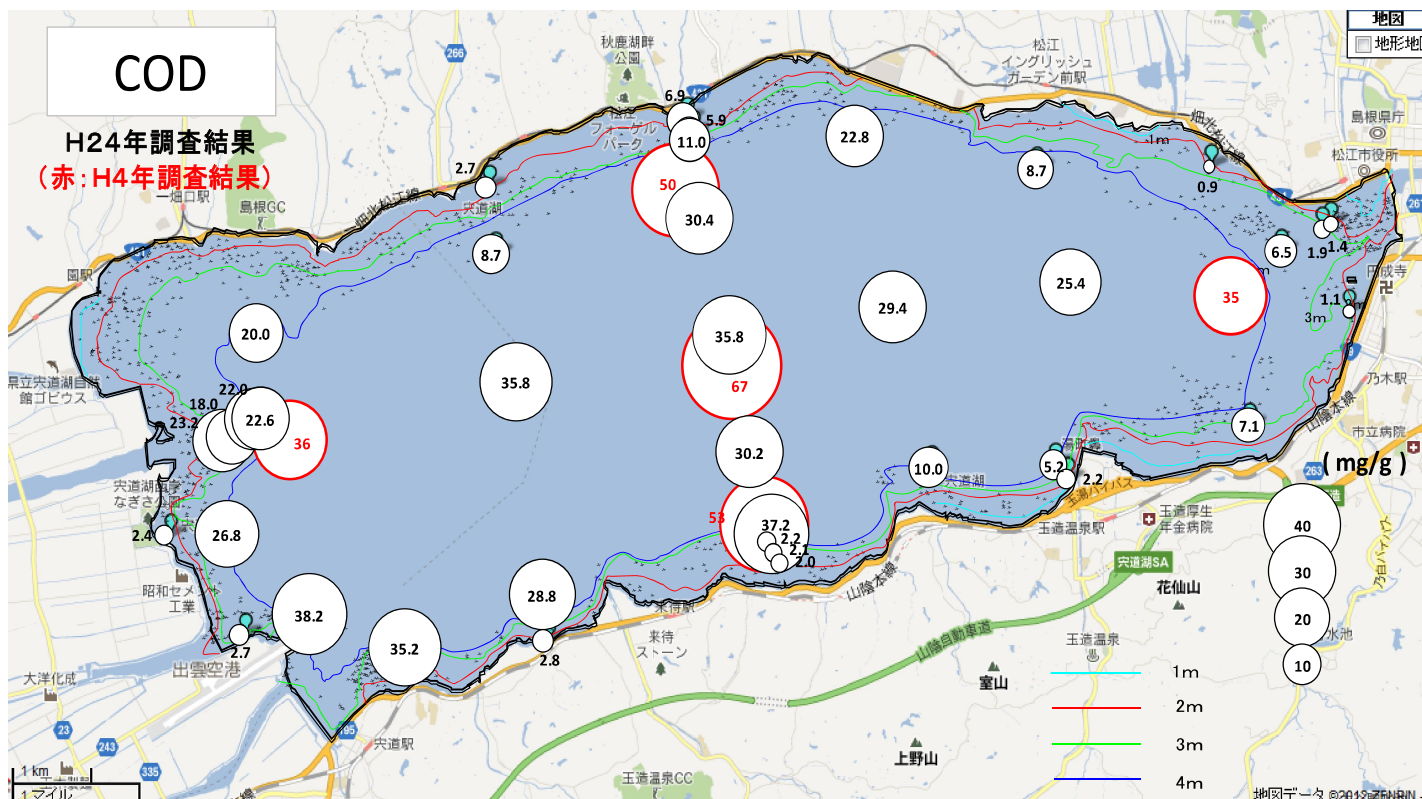
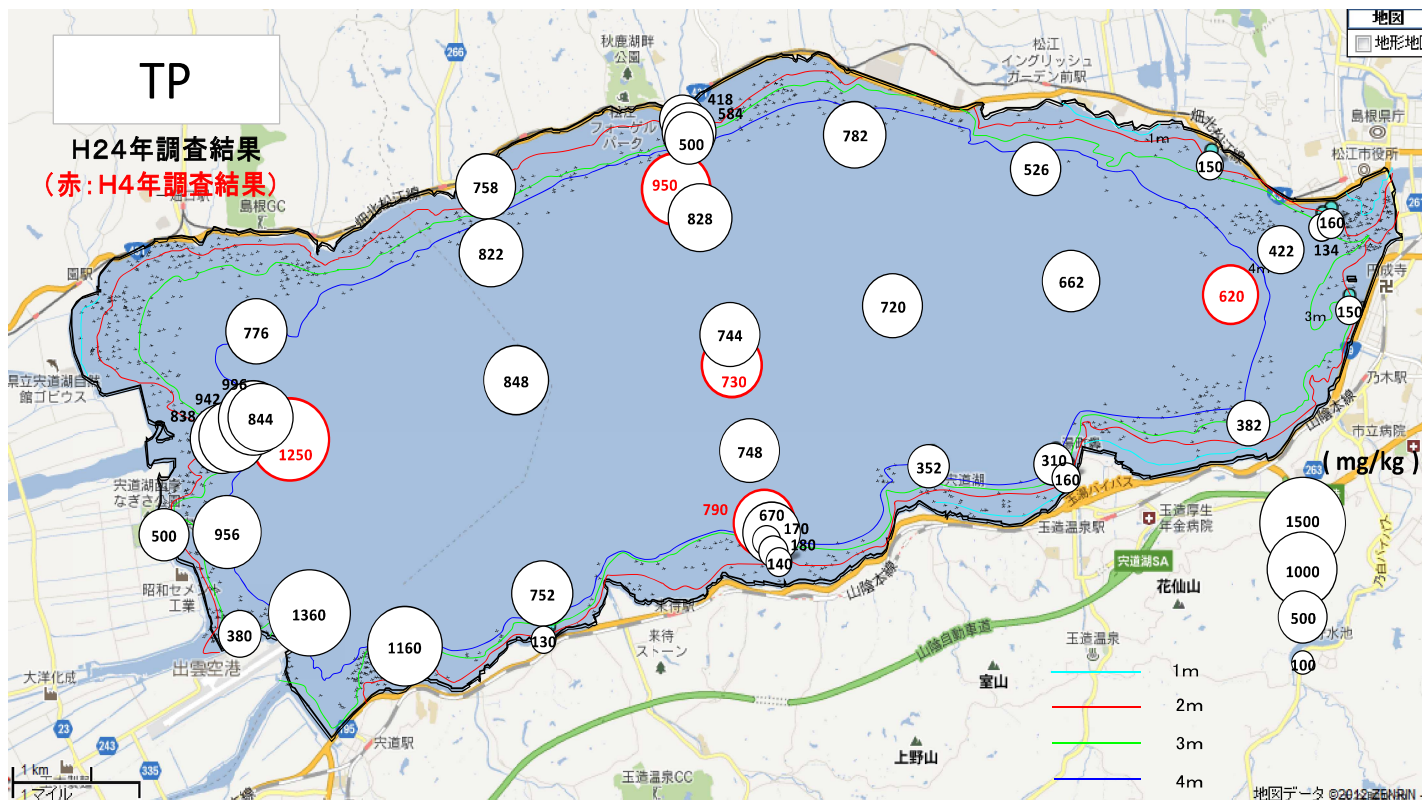
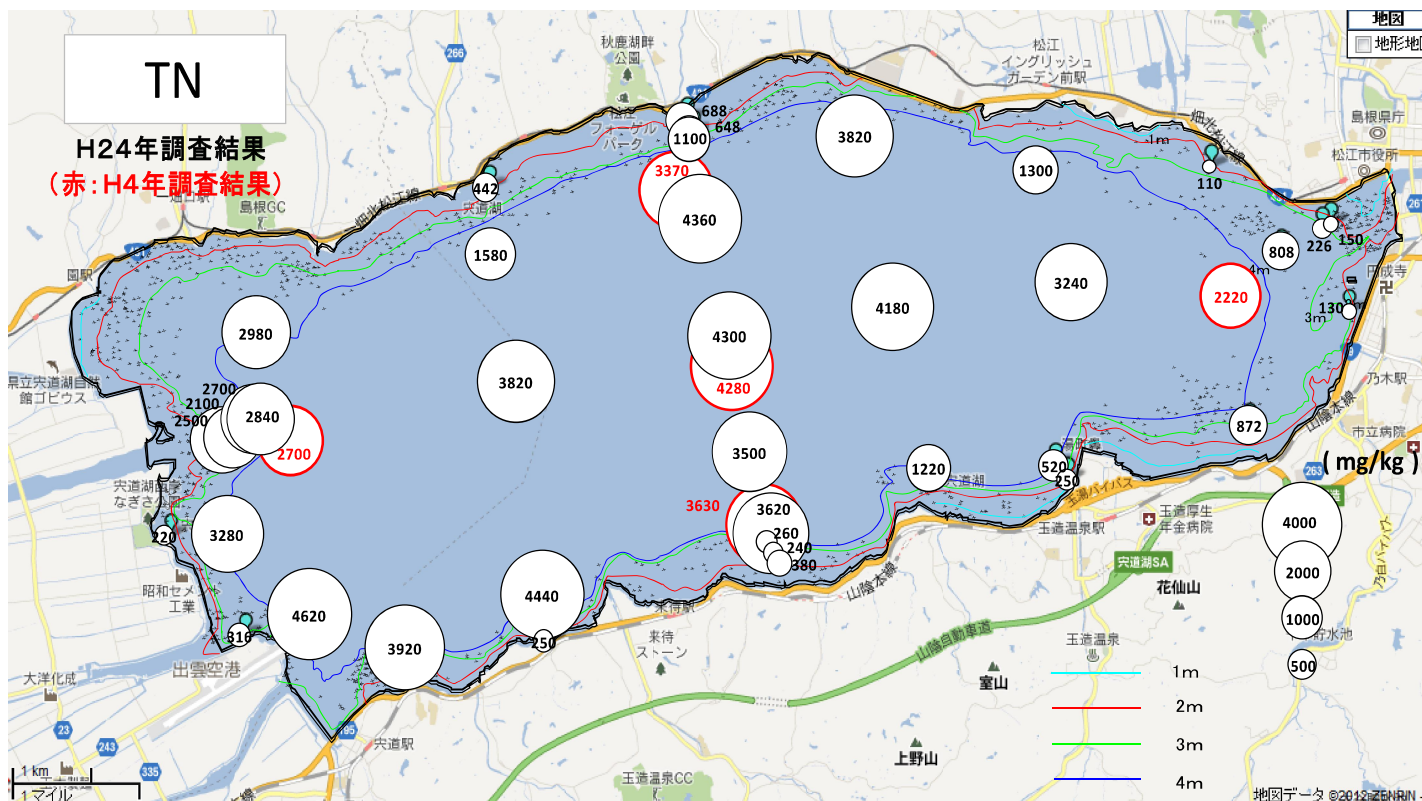
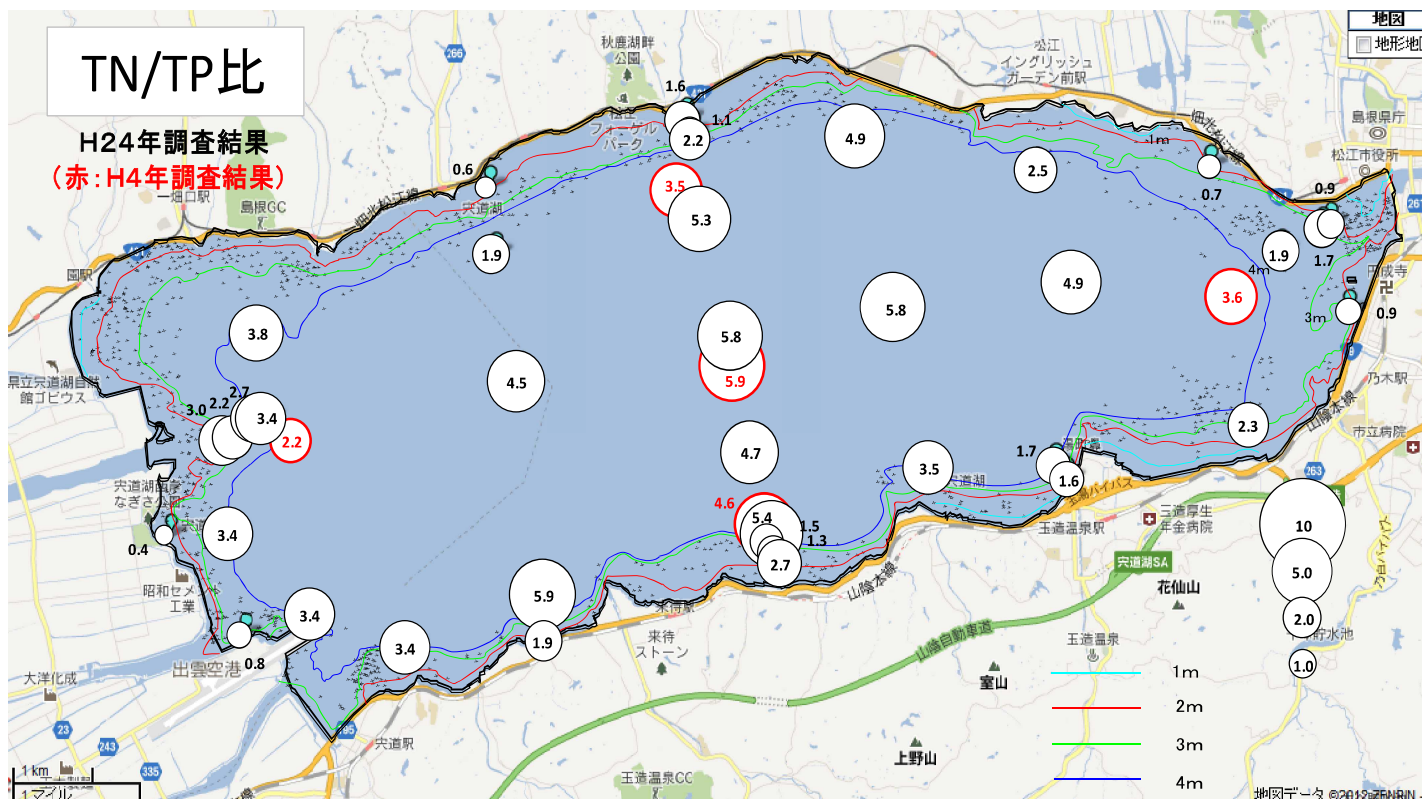






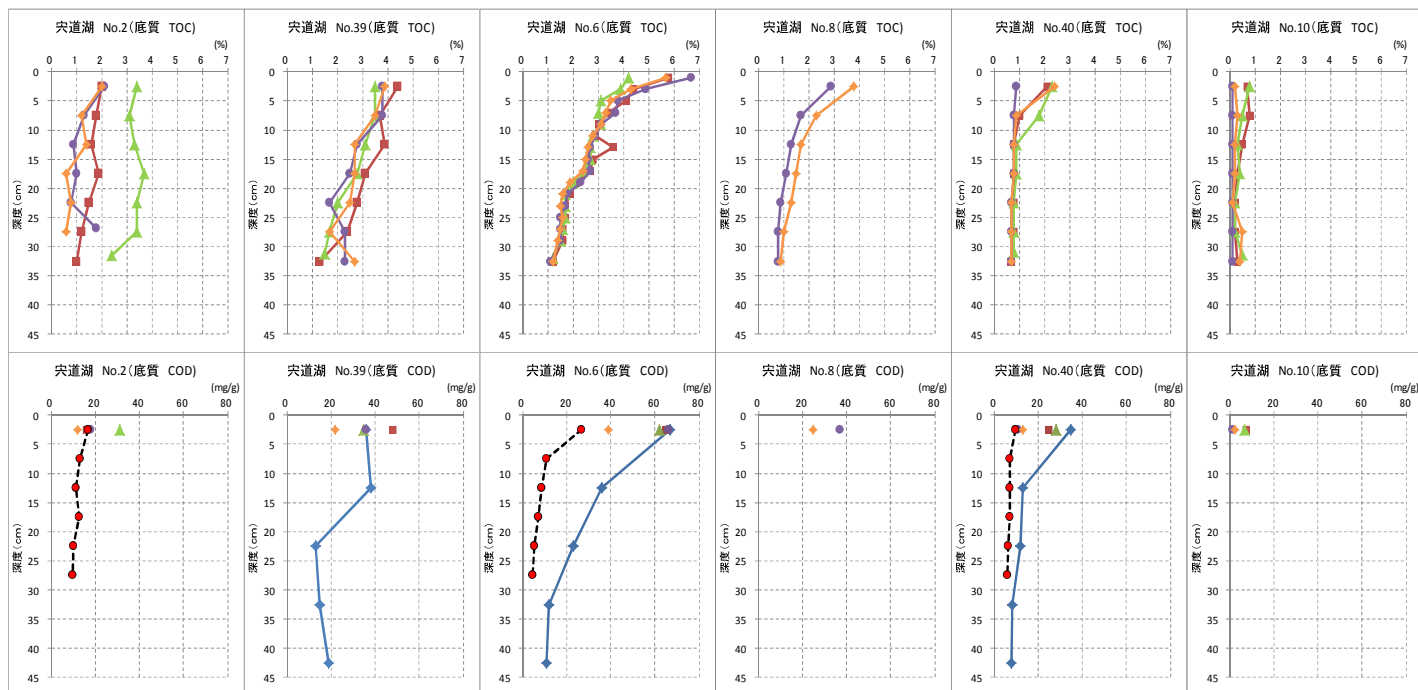
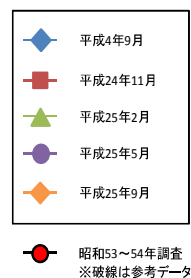
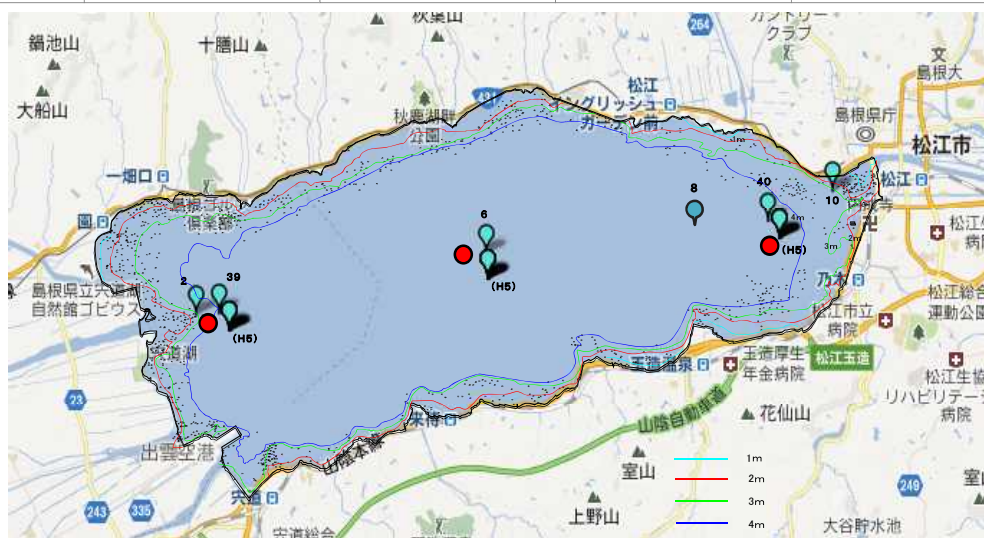
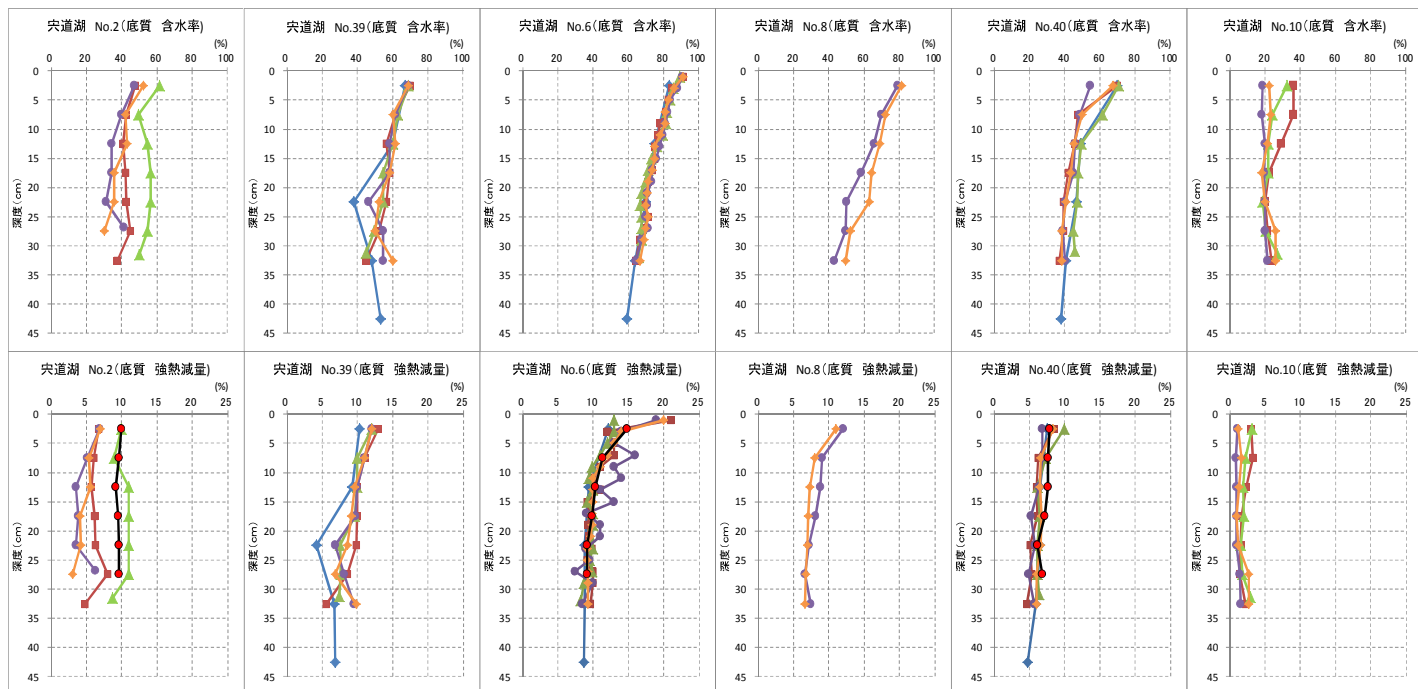


②鉛直状況把握調査

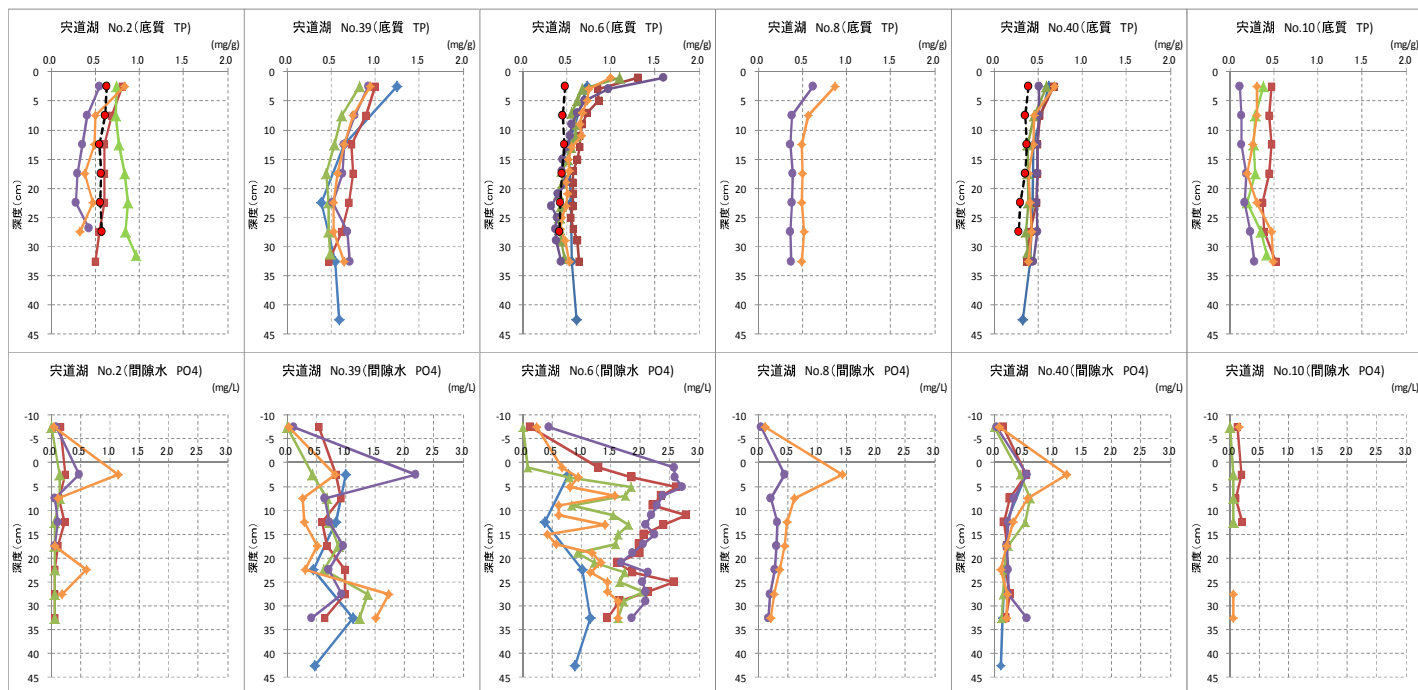
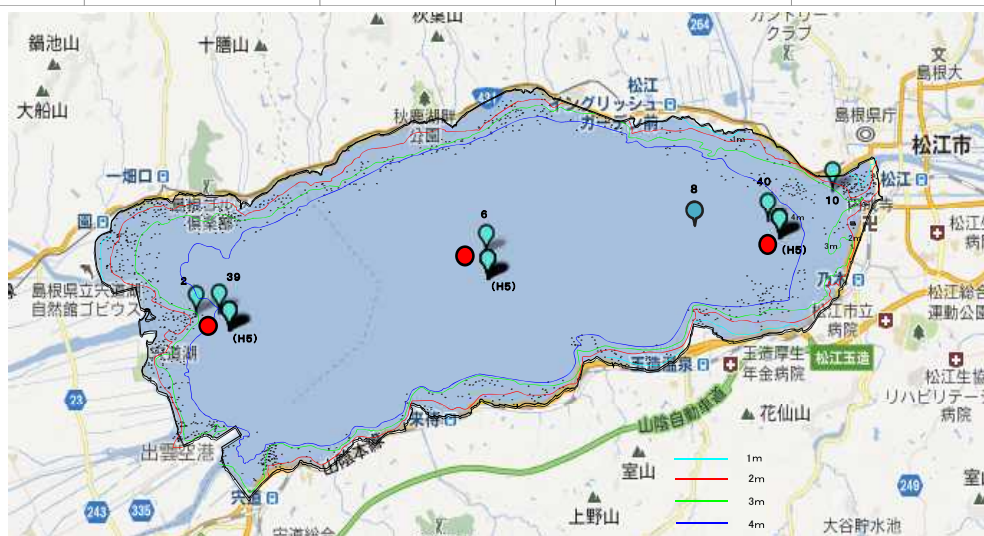
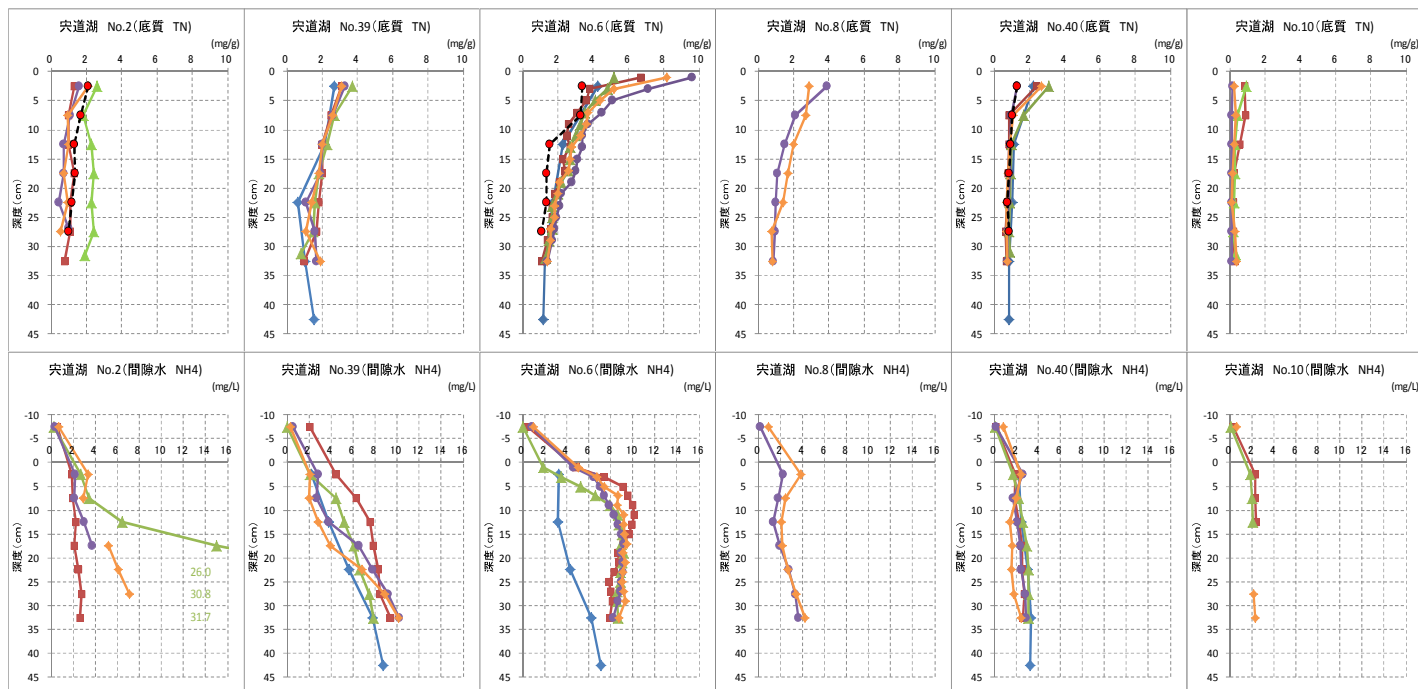
鉛直調査データ一覧

		山崎ほか (1978年)	新日気 (1992年)	島根県 (2012～13年)
調査地点数		18地点	3地点	5～6地点
底質	強熱減量	○	○	○
	COD	○	○	○
	TN	○	○	○
	TP	○	○	○
	TOC	○	○	○
	含水率	—	○	○
間隙水	硫化物	—	○	○
	NH ₄ -N	—	○	○
	PO ₄ -P	—	○	○

②鉛直状況把握調査(調査地点間比較)



②鉛直状況把握調査(調査地点間比較)



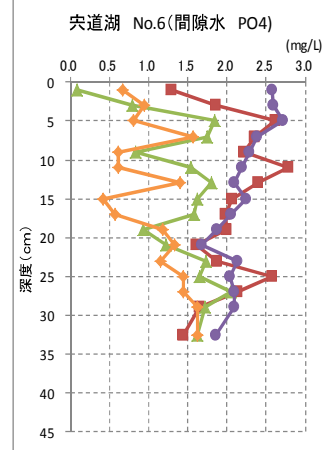
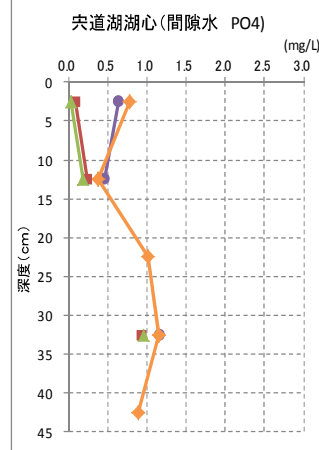
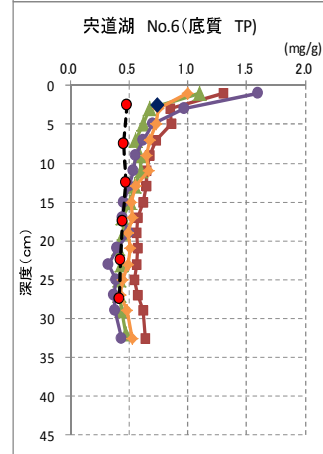
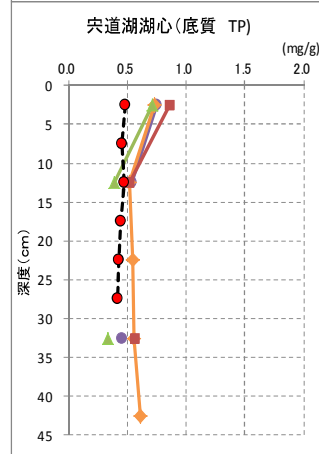
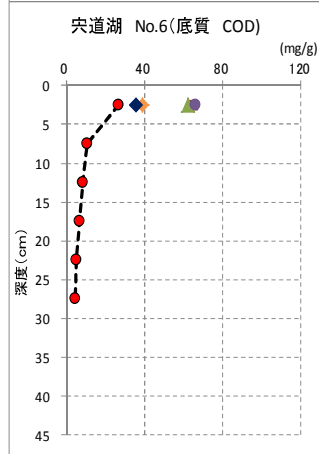
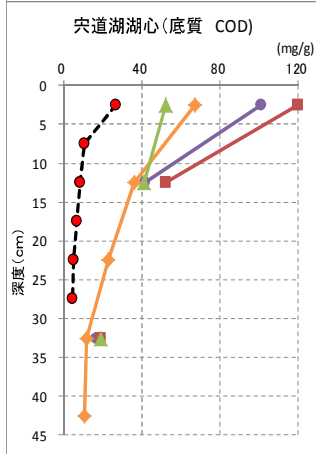
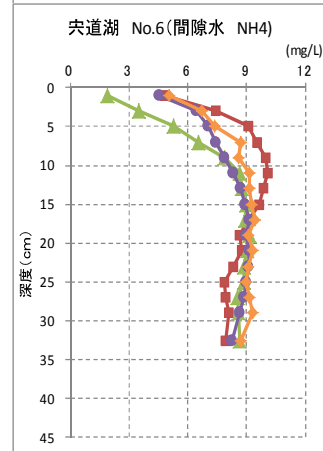
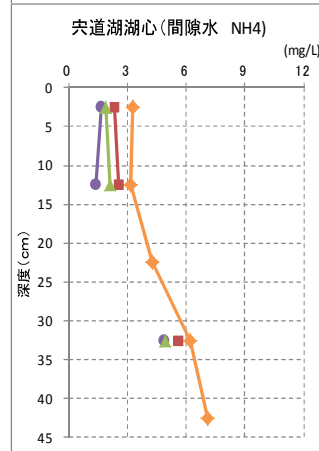
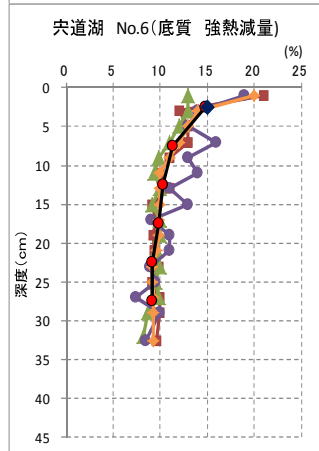
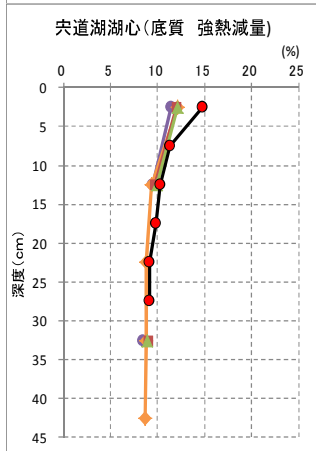
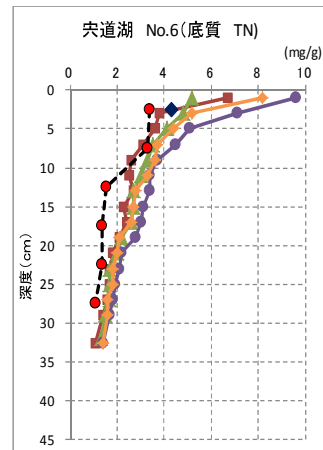
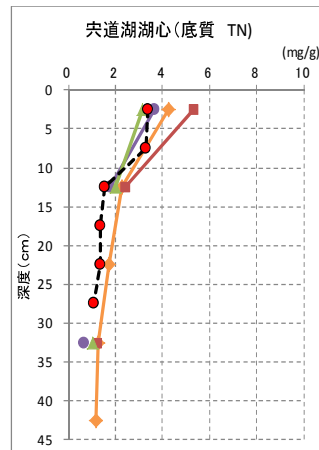
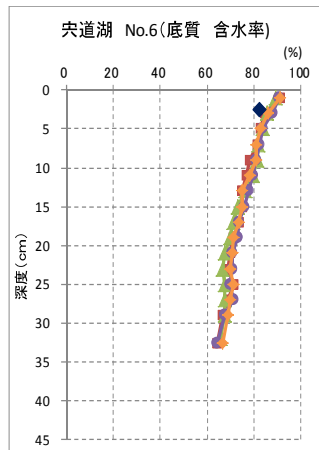
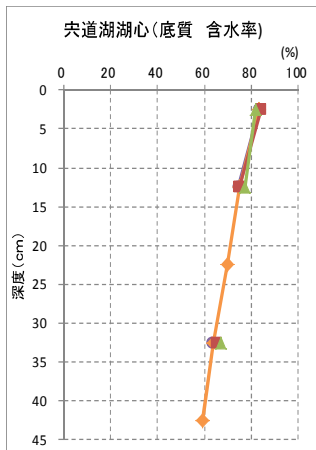
②鉛直状況把握調査(鉛直比較: 宍道湖湖心)

1992年

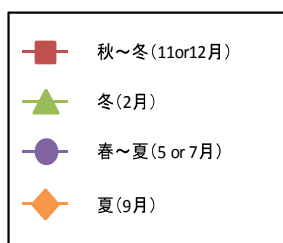
2012年

1992年

2012年

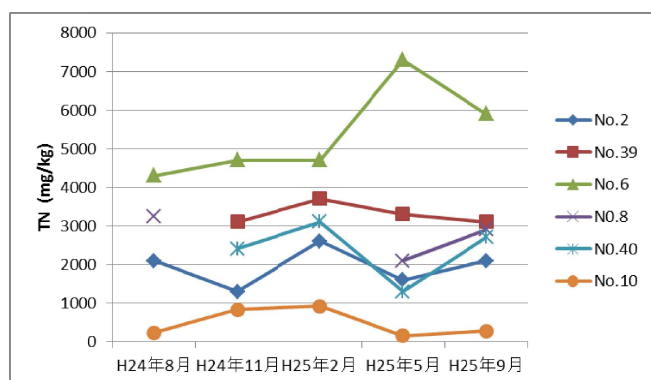
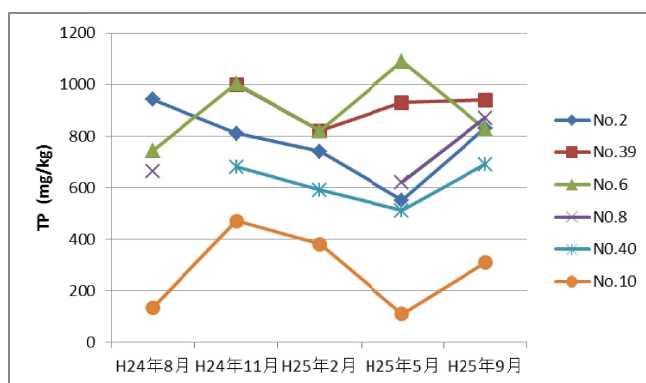
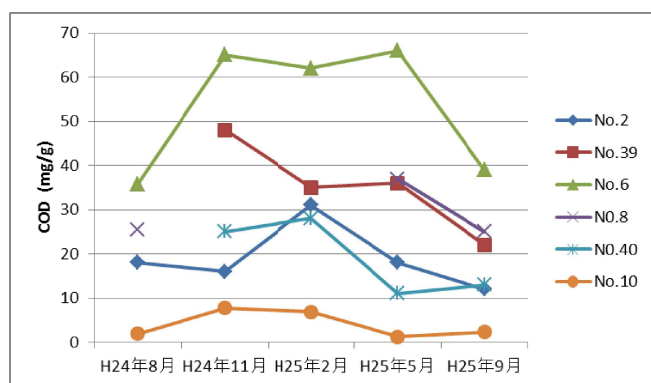


◆は平面調査時のデータ



● 昭和53～54年調査
※破線は参考データ

②鉛直状況把握調査(底質:四季変化)

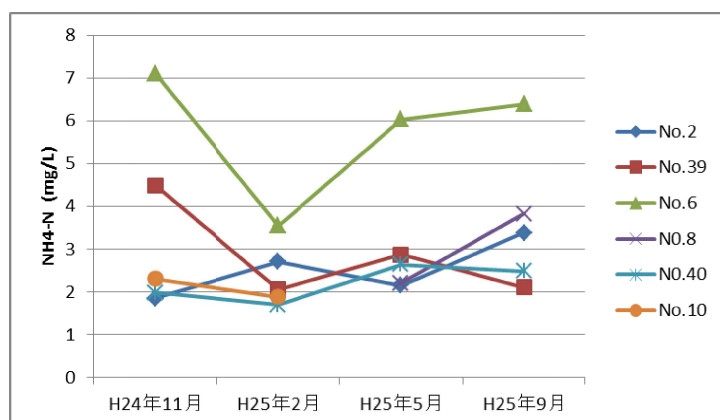


各地点で傾向がばらばら。
CODのみ11～2月以降低下。

COD以外ははっきりとした季節変化は見られない。

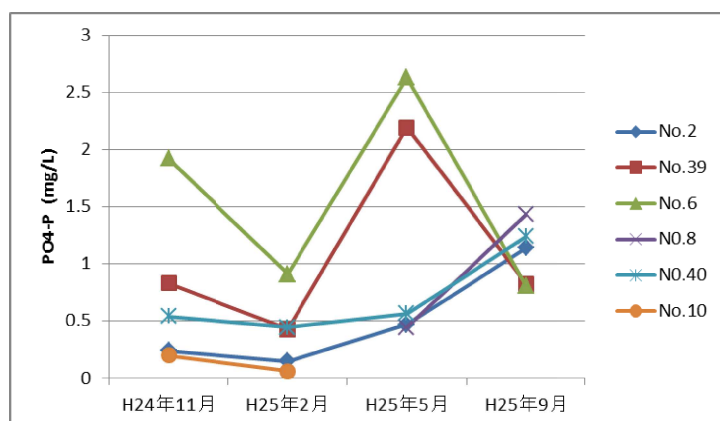
※0～5cm平均値 (No.6のみ0～6cm平均値)

②鉛直状況把握調査(間隙水:四季変化)



No.6(湖心)が全体的に高い。

季節変化はほとんど見られない。



No.39とNo.6が5月に大きく増加。

それ以外の地点は9月が最も高い。

※0～5cm平均値 (No.6のみ0～6cm平均値)

②鉛直状況把握調査(まとめ)

○底質にはっきりとした季節変化は見られない。

○底質は表層部分が最も高く、深くなるほど値は低くなるが、
ある程度の深さ(概ね15cm)で一定になる。

○H4年調査と比較しても、鉛直方向の性状に大きな差は見られない。



鉛直方向も平面同様、20年前と濃度分布はほとんど変わらない。